



印教研理科分科会の感想 会員の声

発行 印教研理科研究部 事務局 成田市幸町948の1 成田小学校

自分から動く

四街道小 吉谷 俊子

五冊の提案資料を前にして自分の教師への姿勢がいつもと違っているのに気づく。他の部会ほど今年初めて研究部員となり、五部会の先生方と共同研修させていた

発表資料が

多すぎなのでは

日吉台小 富沢 清

感想というよりも、やや批判めいてしましますが、各部会ごとの発表資料が多すぎると感じます。字数あるいは枚数を規定して、研究成果のエッセンスとしてまとめ

また、今回の資料中のグラフの

熱い息吹きを感じた

佐倉中 上林 良二

過日、十月四日に行われた印教研の感想を述べたいと思います。

私は、研究発表を聞く前に、次の二つの視点をもって聞きました。① 授業の中で、利用可能か。

業の中に取り入れたい発表ばかり。吹きを感じ自分もがんばらなければ。各部会の先生方の熱い息ばと、痛感させられた会でした。

助言者に聞く 教研発表の感想

小学校低学年分科会助言者

佐藤 幸納

低学年の理科指導で大切なことは、自然の事物現象に直接はたらきかけ、積極的に活動を多くすることだと思ふ。

今回の提案内容はこのねらいにせまるものが多く、会員にとつて今後の理科指導に大いに役立つものだと思ふ。

部会単位の研究は地域の持つ小学校高学年分科会助言者

立井 貞夫

五つの部会から提案された内容は、生物分野が四つあり、一年目の子どもの意識調査、二年目、三年目の研究として計画的な取り組みについては喜ばしい。

しかし、生物分野の研究では、野外観察がともない、複雑な自然の中から中核となる指導内容を引き出して指導しなければならぬ。

中学校分科会助言者

折目 庸雄

五つの部会の五つの研究発表はいずれも地道な研究であった。三年から五年にわたって計画的なものと、研究成果を生徒の変容に求めたり、求めようとしていることからの私の判断である。

理科教育における 幼・小関連について

赤富小 石井 望

現在ほとんどの幼児が、一年保育あるいは、三年保育と、小学校入学前に、保育園または幼稚園を経験してきている。

このような現状から、幼・小関連の教育を考える必要にせまられる。各所で、幼・小の先生方による話し合いの場が設けられるようになってきた。

そこで、理科教育という立場から、幼・小の関連について考えてみたい。

幼稚園教育では、社会性を養う「しつけ」といわれる習慣形成学習と、「自然の事物、現象を直接経験する」認識学習のふたつが重要であるといわれている。特に、幼稚園教育要領では、経験領域を「動・植・物」、「事・物・現象」、「道具の扱い」、「数量・図

理科作品展金賞者 標本の部(続)

マメ科の植物

大田小(6) 小川 美嘉

さびの研究

四街道小(6) 佐久間裕二

風田の湯のわかし方

実任小(6) 粕谷 直義

プランクトンの研究

四街道小(6) 岩崎 卓也

夏休みの夏象

安食小(6) 岩澤 信吾

アゲハチョウの観察記録

南山中(1) 山本 陽一

形に関する四項目に整理されている。

小学校理科教育では、観察、実験などを重視し、特に低学年では知識、理解よりも、見る、探す、試す、等、実際に感覚を生かした具体的活動が重要視されている。

また、幼稚園教育と小学校低学年の学習内容や扱いを比較してみると、重複しているものも多くみられるが、同じ概念や態度の修得をわらうわけでなく、そこには、子供達の経験の量や質の異がみられ、反復体験することにより、質的な深まりを要求しているのである。

幼・小の関連を十分検討し、一貫した指導をしたいものである。そして、自然の精妙さに目をみはり、その美しさに心をふるわす子供の育成をめざしたいものだ。

持着刺の強さについて

佐倉中(1) 桜田 佳宏

針状結晶が通る抜ける穴

上志津中(2) 千葉 元

樹液に集まる虫たち

上志津中(3) 堀越 一禎

光合成と光の色の関係

吾妻中(3) 渡辺 明子

牛乳の鮮度について

千代田中(3) 佐藤 直子

杉山 朝香

久世志美子